

## <今朝の聖書から>

【種まきの喩】教会にしばらく通っている兄弟には、有名なたとえ話の一つでしょう。聖書の時代の種まきはどんなものだったのでしょうか。いまでも見ることができですが、牧草の種を空から蒔きつけたり、高速道路の路肩に、ヘリコプターから芝の種をまいたりするようなものだったそうです。それを人手でやったということになります。稲の苗を育てたり、光景を思い出すことができるでしょうが、耕された畑に作物の種をまくのとはずいぶん違います。畑とちがいで、この喩は“どこに着地するか分からない”ということが強調されています。言いかえれば“どこにもでも落ちる”ということに力点が置かれているのです。

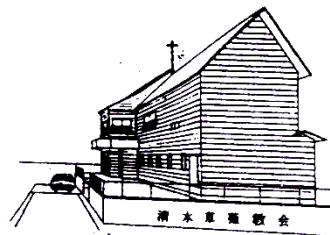
【よい地に落ちた種】この言葉を耳にすると“自分の場合はどうだろう”とか“あの人の場合はどうか”などと、すぐ気をまわしてしまうかもしれません。“石地の上に落ちた種”なんて言われると“ひょっとしたら自分のことじゃないか”なんて思ったりするかもしれません。しかし、こう思うのは正しいかもしれません。何故かといいますと、改革者たちも“主が悔い改めよ、といわれる時、生涯が悔い改めで貫かれることを意味する。そう欲しておられる(『九十五カ条の意見書』1、など)”ということに気づいていたからです。“我こそは、御言葉が着地するのに、良い精神と身体”と思うよりはるかにましです。マタイ4:17には“悔い改めよ。天の国は近づいた”と言って、宣べ伝え始められた”と福音の始めが、記されています。もし“あの人は”と思ったら、そう思った人が石地を表しているようです。そして“良い地”とされているのは何のことでしょうか。

【喩の解説】この喩の重要性は、どの福音書にもあることから分かりますし、主イエスの解説が付け加えられ、その話も含められていることからよく分かります。更に“種は神の言葉である(11節)”とありますから、すぐ分かります。では“地”というのは、どんな心、そして“どんな心を持つ人”を示しているのでしょうか。“それは、『彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』ようになるためである(10節)”とあります。“あなた方で示される弟子”と“彼ら”を区別されている所からみることができます。イザヤ書6:10に“この民の心をかたくなにし、耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく、その心で理解することなく、悔い改めていやされることのないために”とある箇所を思い出しましょう。この箇所、イザヤは、何時までですかと質問しています。神様の答は、“多くの雑多なものが破壊され、切り株として聖なる種子がある時まで(イザヤ書6:13)”というものでした。良い地というのは、訪れた、主イエスに受け入れられる心を言うのです。信仰というのは、気の持ちようではないのですから、やはり“良く聞くことのできる、受け入れることのできる人”のことです。

【ため】もう一つ、気になることばがあります。今朝の8:10が“ようになるためである”という言葉で終わっていることに、聞きましょう。“悟ることが”出来るような人になることができる、という意味です。ただ“理解できるように”主に求める事のみでできるのです。教会が“そのようになることができますように”と求める群れなのです。ただ求めるのです。これからも試練はあるでしょう。しかし“御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩い(14節)を果てしなく味わう)より良いのです。

# 週報

2011年 2月 20日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042